

開港を期待したいと存じます。

第二に九州新幹線の建設です。九州新幹線（福岡～熊本～鹿児島）の建設は、立ち遅れている九州の経済的地位の向上を図るため私達が長い間の悲願としていたものです。三全総においては、「環境等を含め徹底的な調査を行い、国鉄財政再建の成果、経済社会情勢の推移等を見極め、順次その建設を図る。」とされていますが、新幹線建設を国鉄財政再建とからめて議論されるのは甚だ遺憾です。地域の均衡ある発展を図るために新幹線建設は是非必要であり、三全総の理想を現実にするに近づく途であると確信します。また、現在決め手を持たない景気回復のためにも大きなテコとなるはずで、現在、新幹線路線の選定等の基礎資料となる環境実態調査を本県内に進めております。これらを手はじめとして今後とも新幹線の早期着手を目指して積極的に対処して参りたいと存じます。

第三に九州縦貫自動車道の早期完成です。御船～松橋間は五十三年度中には完成する予定ですが、引き続き八代までの区間の早期完成と人吉までの早期着工を図る必要があります。

第四に熊本空港の整備と国際空港化の問題です。

九州の中央に位置し、韓国や東南アジアにも近いという地理的特性を活かし、また、板付等既存空港における増便の困難を考慮して、昨年九月に着工した、滑走路の三、〇〇〇メートル延長工事を一日も早く完成し、定期国際航空路線の開設を図る必要があります。

このほか、一般道路の整備、国鉄高森線の早期工事再開等についても推進する必要があります。

次に農林水産業の振興です。三全総においても南九州は総

合食糧供給基地として位置づけられたことも踏まえ、農業従事者の意欲を組織化しながら生産性の高い基盤の整備に努める必要があります。

このため、農業については、農業生産基盤整備事業の推進を図るとともに、農業構造改善事業、果樹振興対策事業、広域農業開発事業についても重点的な推進を図って参る必要があります。畜産についても、熊本農業において大きな地位を占めているものであり、その経営安定のための施策を図ることが必要だと考えます。

また、県の農業を担う自営農業者を養成するため本年四月開校を目標に県立農業大学校を建設しているところでありますが、次代の中核農家育成に大きな役割を果たすものと期待しております。

農政のもう一つの大きな問題として、米の生産調整の問題があります。五十三年度以降の大幅な減反につきましては、国全体の政策として止むをえないものであるとは思いますが、今後の本県の農政推進の基本的問題に係るものでありますから、転作物のための土地基盤の整備、作付技術指導をはじめ、価格対策や流通の円滑化など関係団体のご理解とご協力を得ながら積極的に対策を講じて参りたいと存じます。

林業については、大規模林道菊池人吉線の建設を促進するとともに、その他の林道網についても整備を推進する必要があります。

水産業の振興策については、世界的に二〇〇カイリ体制に突入したことに伴い、これまで以上に沿岸漁業の振興策の充実、特に栽培漁業については近く竣工予定の栽培漁業センターの十分な活用とあいまって各種の施策を充実する必要があります。

中小企業につきましては前述のとおり、特に厳しい経済情勢の下でありますので、金融対策をはじめ経営の合理化、高度化の促進等その振興に力を入れたいと存じます。

また工鉱業の振興につきましても、本県の企業種別からみて景気動向の影響を受け易い傾向がありますので、地場企業の振興に配慮するとともに地域の発展に関連のある適切な企業の導入にも努めたいと存じます。

次に、今後県政を推進していくうえで最も重視していかなくてはいけないのは、やはり、福祉の充実です。今後ますます人口構成の老齢化が進むと考えられます。老人に対して援護対策を充実し、老人が生き甲斐をもって地域社会の核としてその形成に参加しうるようにしていかなければなりません。また心身障害者に対しても自立更生のための総合的な指導援助に努めていきたいと思っております。

更に、大規模年金保養基地、国民年金保養センターなどの施設の建設についても、今年中に何とか明るい見通しを得られるようにしたいと思っております。

また県民の健康の確保と増進につきましても、救急医療推進体制の整備をはじめ成人病や特殊疾病対策、へき地医療、公衆衛生の向上等各般にわたり進めて参ります。

更に、地域社会の形成、発展のためには、次代を担う人々の教育が非常に重要であることは申すまでもありません。学校施設の整備充実は今後とも力をそそいで参る必要があります。

これらのほか、地域開発を進めていくうえでの基礎的条件となる水資源の開発、国土保全事業の推進も重要な課題であります。

最後になりましたが、水俣病対策について申し述べたいと

存じます。昨年、予算返上等大きな問題となった認定業務については十月から新しい検診体制もスタートしたところですが、依然として申請者数は増える一方であり、認定業務の抜本的改善について政府に要望を行っているところであります。また水俣・芦北地域の振興を図るため、国に対し、特別立法の制定を含む特別の措置を講じられることを要望しているところでありますが、県においても、水俣・芦北地域の振興策について具体的な構想をまとめたいと存じております。

以上いろいろと申しあげましたが、地方財政をとりまく環境も依然として厳しいものがありますし、国の財政事情も厳しいようです。しかしながら、いずれの施策も熊本県を真に住みよい郷土につくりあげるために是非必要なものであり、従来から懸案となっていた新幹線や熊本新港の建設の問題など何とかメドをつけたいと切に願っております。いずれにしても県の抱えている様々な問題は、県や国の力だけで解決できるものではありません。

私といたしましても微力ではございますが、諸般の厳しい経済社会情勢のなかにおきまして県の組織をあげて県民の皆様様の福利の向上と県勢の発展を願って力を尽して参りたいと存じます。

県民の皆様におかれましても県政を担うのは百七十五万県民だという気概を持って、それぞれの立場で住み良い郷土の建設、繁栄にご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、県民の皆様方のご健康とご多幸を衷心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。